



まる ○福連携2023

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る

◆エピソード2 民謡歌手 竹野 留里さん



たけの・るり 1999年、室蘭市生まれ。4歳から民謡を始め、民謡日本一の称号を4度獲得。室蘭栄高校在学中に出演したテレビ番組「THEカラオケバトル」で2回優勝。札幌医科大学保健医療学部に進み、作業療法士の資格を取得。現在、作業療法士として東京都内病院に勤務しながら、音楽活動、俳優活動など幅広く活躍している。

都内で作業療法士として勤務しながら、音楽活動、俳優活動などマルチに活躍する竹野さん

●民謡歌手というと、どんな活動をされていますか？

以前は老人ホームなどに慰問に行き歌ったり、小中学校や高校で公演をさせていただいたり、現在は東京都内で民謡の番組にも出演しています。

●民謡とは、どういう歌なのですか？

説明が難しいのですが、昔から歌われていて、北海道の場合はニシン漁をするときの掛け声が歌になったり、街の人たちが歌い継いできたものが民謡と言われています。代表的なものは北海道で言えば、ソーラン節です。

●なるほど。竹野さんは作業療法士のお仕事もされているということですが。

芸能活動をしながら、東京都内で週に3回働いています。

●作業療法士のお仕事ってどんなお仕事ですか？

理学療法士と似ていますが、理学療法士は身体の基本的な動きの回復を目指し機能訓練を行うのに対して、作業療法士は買い物に行く、車を運転する、ご飯を食べるといった応用的な動作の回復を目指すリハビリのお仕事です。

●民謡歌手になると思ったきっかけはどんなものでしたか？

民謡は、札幌のYOSAKOIソーラン祭りに小さい時に踊り子として出ていて、ソーラン節を歌えるようになりたいと、家族みんなで始めたのがきっかけです。仕事としたいと思ったのはテレビ番組「THEカラオケバトル」に出るようになってからです。

●ジャンルがいろいろある中で、民謡を選ぶきっかけはソーラン節ですか？

一番身近な曲がソーラン節や北海道の民謡でした。他の曲も歌ってみたいという気持ちもありましたが、家族がやっているのは大きかったですね。

●竹野さんの歌は、民謡のワクを超えるものがあると思いますか？

ありがとうございます。小学生の時に同級生に「民謡って古くさいじゃん」と言われたのがショックでした。今はボーカロイドや、X J A P A Nさんの『紅』を和風にアレンジして、若い世代にも「民謡ってカッコいい」と思ってもらえるようYouTubeで発信しています。

●民謡歌手として大切にしていることはありますか？

歌を歌う時は、民謡に限らずですが、歌ができた歴史や、歌を歌ってきた方たちの感情を大事にしようと思っています。例えばソーラン節は、実家の近くに崖(がけ)があって、そこから海を見ながら、当時の北海道に渡ってきた方の気持ちや、漁をする気持ちを感じながら歌っていました。それで得たものが民謡以外の曲にもつながっていると感じています。

当時は毎日、朝5時に起きて崖に行き練習していました。崖をのぼるので肺活量も鍛えら

れて、一石二鳥になったと思います。

●一方で、作業療法士を選んだ理由は？

芸能界じゃなくても音楽を使う仕事をしたいと思い、音楽療法士という仕事を見つけました。調べるうちに音楽療法にもつながる作業療法士という国家資格があることを知り、生活に寄り添っているリハビリという印象が素敵だなと思い、高校の時に目指しました。

●作業療法の中でも、音楽を専門にしているということですか？

手工芸や料理もしますが、力を入れたいのは音楽療法でした。実習に行ったときに、アルツハイマー型認知症の方で、目もなかなか開けない、寝たきりの方がいらっしゃったのですが、私の歌を聴いて目を開けて「あんた、いい声してるねえ」と言ってくれました。担当の先生からも「この方が目を開けてしゃべってくれることもなかなかないんだよ」と聞き、歌ってすごいと感じ、作業療法士として働く気持ちも強くなりました。

●民謡歌手としてキャリアを重ねる中で、失敗したり、つまずいたりすることもあると思いますが？

失敗というより、もっと努力しようと思ったきっかけになったエピソードです。小学校の時に、私は室蘭市出身なんですけど、登別市にも民謡をやっている女の子がいて、同い年でどちらが入賞するかとバチバチやっていたんです。2人で全道大会に出場したときに、その子が4位で

私は入賞なしでした。私が大泣きしていたら、父が「じゃあ、それだけの努力をしろ」と言ってくれて。それから意識して努力するようになり、次の年に初入賞・初優勝することができました。いま振り返ると、このときに努力した経験がプロとしての原点になっています。

本当の失敗という、「四季花鳥」という新曲を出して銭湯のステージで歌わせてもらうことになったのですが、草履(ぞうり)を脱ぎ捨てて足をつってしまい、曲が始まっているのにやり直しをさせていただいたことがありましたね。くしゃみ、咳が出そうになることも何回かありますが、我慢します。小学生や中学生の時は特に失敗しちゃいけないという思いが強く、必死でとめていました。

4歳の時に歌詞を間違えたこともありました。親に「うまく歌えたらおもちゃを買ってあげるよ」と言われていたのに、歌詞を間違えてしまい、ショックで歌い終わった後にお辞儀をして顔を上げられないまま、親に連れられてステージを降りた動画が残っています。

●民謡歌手の仕事をしていて、介護を感じることはありますか？

民謡は特に高齢者の方からすごく愛されていて、歌を聞いて「元気でたよ」とか「明日からがんばれるわ」と言ってくれることも多く、生きる活力になれるというのは、福祉や医療に通じるかなと思います。自分の経験でも、初めは気分の乗らなかった方が一緒に歌うことで元気になっていく姿を見て、そのように感じます。これからも、テレビだけでなく、施設や病院などいろいろなところで民謡を歌っていきたいです。

●最後になりますが、介護・福祉関係者に向けて何か役立つような技術をレクチャーしていただけますか？

では、一緒にソーラン節を歌いませんか？民謡の声の出し方ですが、へその指3本下の丹田(たんでん)というところに力を入れて、口からじゃなくて、壁に当たってはね返るような音量を出して歌ってみてください。これだけで、民謡の声の出し方になります。他のジャンルの歌の時にも共通するので、カラオケがうまくなりますよ。

レクのときなど、部屋の奥の方まで声を届かせなければいけないときにも役立つ発声法です。ぜひ、みなさんも練習のときに民謡を使ってみてください。



◎インタビュー◎

たかはし・ぎんじ 1987年、小清水町出身。北海道介護福祉学校や北海道医療大卒業後、障害福祉事業所に勤務の傍ら、北星学園大大学院社会福祉学専攻修士課程修了。オホーツク社会福祉専門学校専任教員を経て、現在、日本医療大総合福祉学部助教およびEzo'n music提携ジャーナリスト(NPO経営・福祉系)としても活動。社会福祉士、介護福祉士。

日本医療大 Ezo'n music



「○(まる)福連携プラス」YouTube配信中

インタビューの様子などを視聴できる動画チャンネル「○(まる)福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れない内容を含め10分ほどにまとめている。

○福連携プラス

